

# オリジナルパッケージ作製サービスの ORiPA (オリパ)

新居紙器株式会社  
代表取締役 新 居 慶 二  
K. Arai

## ORiPA, an Original Package Manufacturing Service

Our company manufactures processed paper products such as packages and gift boxes, and processed cardboard products such as shipping boxes and packing partitions. ORiPA, an original package manufacturing service, can respond to small lot, high variety, low price, and short delivery time thanks to our unique manufacturing method that combines digital printing machines with unique processing technology. Moreover, it can be applied to optional processing such as foil stamping and film lamination, can offer color samples using actual machines, and can provide cost advantages. In addition to the production, we can offer complete support to customers for design proposals, package assembly, product assortment and shipping work.

## 1. 会社概要

創業：1947年 会社設立：1955年

従業員数：20名 本社：大阪府八尾市

日本国内において、段ボールを原材料とした輸送用の箱や梱包用の仕切りなどを製造する段ボール加工と、紙を原材料とした商品パッケージや化粧箱などを製造する紙加工が主な事業内容である。

また、箔押しやフィルム貼りなどのオプション加工や、箱の組立てや商品の箱詰めといった付帯作業への対応も行っている。

## 2. 当社が選ばれる理由

- (1) 一般に別会社で加工される段ボール製品と紙製品を共に自社内で加工できること  
段ボール製品と紙製品では原材料が異なる

ため加工や製造する機械も異なり、通常はそれぞれ別々の専門業者で加工される。しかし、当社では一部の加工において共通の機械を使用して製造する技術や多能工化を進めており、段ボール加工事業での技能やノウハウをパッケージ事業にも取り入れることで、段ボールも紙も自社内で加工することができている。段ボール製品と紙製品を両方使用する顧客は、商談や発注なども一度で済み、納品も1回で終わることができる。

- (2) 一般に専門会社で加工される「箔押し」を自社内で加工できること

箔押し加工はパッケージ製品のオプション加工であるため、一般的には箔押し専門業者に加工を依頼するが、当社では同加工を自社内で行い、パッケージに付加価値を付けるこ

とができ、数量・単価・納期などの条件に融通を利かすことができています。

(3) 極少量の納品や受注後の数量変更・値引きなど、他社が嫌がるような顧客の要望にも柔軟に対応していること

「顧客からの依頼は断らない」をモットーにしているため、利益率の低い仕事に対しても嫌がらずに請け負うことで、利益率の高い仕事を任せてもらっている。商談時の内容と受注時の内容が違った時でも、快くご要望を受け入れることで顧客から頼りにされる存在となっている。

(4) 行政機関より事業計画の認定を受け、計画を実現できていること

近畿経済産業局、大阪府、八尾市などから事業計画の認定を受け、補助金や助成金などの採択をたびたび受けているように、行政機関や自治体などの方針に従いながら計画達成に向けて取り組んでいる（経営力向上計画・経営革新・大阪ものづくり優良企業賞・ものづくり補助金・IT導入補助金・小規模事業者持続化補助金など）。

(5) 地域貢献を行っていること

敢えて手作業に拘ることで、箱を組立てる作業や商品を詰め合わせて発送する業務などを創出し、それらを地域の福祉作業所へ委託している。パッケージの製造を通じて社会的弱者の方々を支援している。

### 3. ORiPA とは

ORIGINAL IDENTITY PACKAGEの略称。お客様のご要望や数量・単価・納期などの条件を考慮した上で、最適な方法でオリジナルのパッケージを作製するサービスの名称。

お客様が箱のサイズや形状、印刷やデザインなどを独自のものにされたい時に“オリジ

ナルのパッケージ”と表現されることが多く、また、オリジナルでパッケージを作製することに対して抵抗感や煩雑なイメージをもってもらいたくなかったため、分かりやすくて親しまれやすいネーミングにすることを心がけた。

### 4. ORiPA の特徴

使用する原材料や印刷色などを限定的にし、デジタル印刷機・トムソン機・サクマシシ・箔押し機などと独自の加工技術を組み合わせた当社ならではの生産方式で「小ロット・多品種・低価格・短納期」に対応できる。

実機を利用したカラーサンプルの提供ができること、コスト上の利点が多いこと [印刷時の製版代不要、色校正代不要（量産時）、単色カラーでもフルカラーでも原則同単価]なども特徴である。

また、専属デザイナーによるデザインのフォロー（印刷内容や形状のご提案・データ作成・支給データの修正や調整作業・ブランディングなどへの対応）も可能で、デザインのみをご注文される顧客も多数いる。

### 5. サービス開始の経緯

洋菓子店のオーナーシェフから、現在使っている化粧箱はどれも単価を抑えるために、1回当たりの発注数量が数千枚～数万枚と必要以上に多く、費用も保管スペースもかさみ、使い切るにしても何年もかかるため非常に使い勝手が悪いと相談を受けたことがきっかけであった。

当時は段ボール加工しか行っていないかったが、素材は違えど同じ箱を製造している者として何とか解決できないものかと、印刷や加工などの方法や機械を独自で見出し、2009年にオリジナルのパッケージを数百枚程度の数量（多



写真1 リボン型ギフトBOX



写真2 アロマオイル用箱

品種)でも低価格(短納期)で製造できる仕組みを構築した。

小ロットでもコストパフォーマンスが高いので、例えば百貨店での催事用スイーツやイベント用の雑貨製品、数量限定のハンドメイド作品を入れるパッケージなど幅広い場面で活用していただいている。

#### 事例1：リボン型ギフトBOX(写真1)

フタの天面にリボンの型抜き加工を施したパッケージ。

箱とリボンが一体化しているので立体感もあり、ひと味違う存在感をアピールできる。

例えば100枚×5種類で製造しても、版を作る必要がないので500枚×1種類で製造した時の単価で対応でき、コストをかけずにシーズンごとや商品ごとにデザインを変更することができる。

#### 事例2：アロマオイル用箱(写真2)

30種類もあるアロマオイルに使用するパーラ紙のパッケージで受注数は各種25枚。

それぞれ商品名やJANコードが異なるため、こちらも本来であれば30種類の版が必要となりコストもかかるがすべて不要に。また、種類ごとに数量を変えることができるので、必要な分だけを製造することで無駄が発生し



写真3 シールの再現

ない。そして、1枚からでも製造ができるため、あと数枚だけ必要といった依頼でも、必要以上に製造することなく対応ができる。

#### 事例3：シールの再現(写真3)

以前は箱とシールを別々に製造しており、単価を抑えるためにシールは箱の数量の20倍以上を製造していた。そのため、シールを使い切れなかったり、劣化して使用できなくなるなどの問題もあったが、印刷後に箔押し加工をすることで、箱にシールが貼られた状態を再現し、シールを製造する必要がなくなった。また、シールを貼る手間や時間がなくなるので、コストダウンにもつながった。

#### 事例4：印刷の追加(写真4)

販売していた商品がコンテストで受賞し、次回の製造分よりパッケージの印刷を一部追加することになった。このような場合でも、新たに版を作り直す必要がなく、時間もコス



写真4 印刷の追加



写真5 ゼリー用のスリーブ

トもかけずに今までと同条件で対応ができる。また、急な変更が生じてもデータを変更するだけで完結できる。

#### 事例5：ゼリー用のスリーブ（写真5）

従来はPET製のスリーブ、透明シール、台紙と三つの資材を使用しており、セットアップの手間やコストが掛かっていた。また、資材の単価を抑えるために必要な数量は、スリーブが15,000枚、シールは5,500枚、台紙は3,000枚であった。特にシールは商品名が印刷されているため商品ごとに製造する必要があった。

ゼリーの種類が増えるとその度に新たなシールを製造していたが、終売によって余ったシールを処分したり、あるいは処分後に再販が決定して再度シールを作り直すこともあった。

そこで、種類ごとに印刷のデザインが変えられる紙製のスリーブを提案することで、資材が一つになり管理もセットアップもしやすくなり、以前と比べて製造数量もかなり低減させることができた。そして、木型もフレーバー部分のパーツだけを変えれば、他は共通で使用できるため、1種類ごとに木型を丸々作製する必要がなくなった。PET製のスリーブから紙製のスリーブに変えることで脱プラの実現もできた。

#### カラーサンプルによる確認

量産前には必ず実機を使用したカラーサンプルを作成してクライアントに確認をしていただくため、ミスマッチや確認漏れを防ぐことができるので間違っ

た状態で量産することがない。間違った状態で量産すると「木型・箔版・紙・インク・糊・包装紙（外箱）・電力・CO<sub>2</sub>（配送）」などが無駄になる可能性がある。

また、カラーサンプルによる事前確認を徹底しているため、製造中のロスや不具合品の発生を最小限に抑えることができている。そして、急な印刷変更にも迅速に対応することができるため、事情や状況によっては変更依頼を受けた当日に変更後のカラーサンプルを出荷することもできる。